

市長 コラム

column No.172

「ほたる」 との出会い

文 | 笠間市長 山口伸樹

写真 /

ほたるが生息する片庭川の様子

私はいつもの日課として市内を散歩しながら、街の風景を楽しんでいます。特に5月末から6月上旬にかけて、片庭川沿いの水田地帯を歩くと「ほたる」を見かける機会が多くなりました。日によって数に違いはありますが、少ない日でも2〜3匹。多い時には5〜6匹の「ほたる」と出会うことが出来ます。

皆さんは、市内の水田に「ほたる」が生息している所があることをご存じでしょうか？

散歩しながら、「毎日見ているのは、自分だけなのかな。」と思ったりして、もし自分だけであれば、とても得をしているような気持ちになったりしています。ここ数年の間では、今年は特に多く飛んでいるように感じています。ほたるは、水のきれいなところに生息するので、川がきれいになってきた証の一つであると思います。

世の中全体が、新型コロナウイルス感染症の影響で気持ちが沈みがちな時期であります。ほたるの姿を見るたびに自然の中で生きぬく力強さを感じ、その光る美しさに癒やされています。

「ほたる」は環境に正直であります。環境が改善され、ほたるの生息が拡大しているのだと思いますが、私たちがこの環境をしっかりと守っていくことが必要であると考えています。

来年もまたこの美しい光に出会えることを楽しみに、市内散歩を続けたいと思います。

今月の ピックアップ

焼物兄弟産地
「笠間と益子」が
日本遺産に認定！



JAPAN HERITAGE

日本遺産

6月19日に今年の日本遺産認定が発表され、笠間市と栃木県益子町が文化庁に共同申請した「かさましこ〜兄弟産地が紡ぐ〜」焼き物語が認定されました。日本遺産は、地域の歴史的魅力や特色を生み出す有形・無形文化財を通して地域活性化を図ることを目的に文化庁が2015年に創設したもので、これまでに全国で83件が認定され、今回は69の申請のうち21件が認定を受けました。

笠間焼と益子焼の起源はいずれも江戸時代であり、江戸後期に笠間で修行した陶工が益子にその技法を持ち込み益子焼が誕生したとされ、「兄弟」の関係となっています。「焼き物文化」を軸に、両産地の結びつきを強め、両市町の皆様と共に地域活性化を図っていくこととなります。

今後の活動については、市ホームページや広報等でお知らせします。